### 人科法學大國帝都京

爒 Ξ 篙

最低

賃

金

j

制

度

三就

キ

H

英

1

物價

态 第

資本 兌換券-物價-輸出 眞概念ノ發展三窓

λ

關

法學

博

小

]]]

鄉

太

郎

法學博

河

肇

國 ||座||ノ研究|| 厉

で
デ
ゅっ
ご・
ひ
ゆ
ー 税 ノ當否こ

t

法學

博

福

 $\mathbb{H}$ 

德

**交學博士** 

 $\equiv$ 

浦

周

行

法學

愽

神

戸

雄

同 盟 アル我 說 國

態度

法學

博

戸

田

海

市

聯合國經濟

雜

牧野 流 间 根根 博 據 新 老

小

野

塚

デが脳 経済なった

不換紙

幣

通

び

VD

5

Ö

あ

Ì

ノ經濟發段階說

二非洲創 法學 法 學

博

神

戸

正

雄

法學 博 博 +: 戸 福

田 H 德

海 市  $\equiv$ 

禁)

通 俗經濟文庫」卷 器用上其脩

瀧本誠 危言摘義解題ニ就」ノ補遺 ラ讀 て
こ
テ

法學 博士 鈴 河

法

夓

士

財

部

靜

法

塱

土

河

田

嗣

郎

山

本

美

越

乃

上 券 太 肇

郎

木

(載

## (二、完)

泂

Ŀ

八八八年五月 くら 呵 ۱ ۲ · カ 前述ノ如き か 意見ヲ發表スル P ٠,٦ 間モ ナク 同年七月

(Carl Menger)

ガ『資本ノ學説ニ就イテ』ト題ス

ル

論文ヲ公ニ

シタ。

此論文ヲ見ル

<u>-</u>,

めん

かゞ

1

めん

かゞ

1

譯デハ 亦、 上 ハ不思議ニモ前ニ <u>-</u> 貨幣價値ニ依リテ考ヘラレ居ルコトヲ資本 有 胩 戸隔 μ 7 7 IJ たつとる ۸, 僅 述ベタくらーくノ意見ト同ジデア 二二ヶ月 明 力 二過ギザレ = めんが 1 , 所論ヲ其 め Īυ <u>ン</u> 13 特性上 w 1 ¢ ノ意見 獨立 併シ米國ト獨逸ト 爲 ハ恐ラ シテ居ルノデアツテ、 ノ思索ニ本ク ク何等くらー ト言ツテ居ル 遙二 海ヲ隔テ 其點 ニ負フ所ア ァ 居 於 1

めん 'nς 所論 要點ヲ抄錄スレ ۳ر 左 如ク デ 7

試

wird unter

Im

gemeinen Leben, auch in Kapital etwas wesentlich anderes, als in unserer der den Auffassungen des letzteren sich anschliessenden Sprache Wissenshaft, verstanden. Die Praktiker auf dem Gebiete

der

Jurisprudenz

der Wirtshaft und die Juristen bezeichnen mit dem obigen Ausdrucke, weder Rohstoffe, weder Hilfsstoffe der techn

ē

Güter mehr.

eingedrungen überall dort, wo nicht etwa die Terminologie der Smith'schen Schule bereits in die Sprache des gemeinen Lebens ishen Produktion, noch auch Handelsgüter, Machinen, Gebäude, ĮŞĮ. mit dem obigen Worte bezeichnet dglNur Geldbeträge werden

(第三號 四〇年) \_ \_ \_

第三卷

論

靗

資本ノ眞概念ノ發展(二'完)

肇

Carl Menger, "Zur Theorie des Kapitales", Jahrbücher für nomie und Statistik. 51. Bd., (1888), S. l. ff. Tuttle, "Fundamental notion of capital", Quaterly Journal ovol. XIX, (1905), p. 82. (1)

Indes werden im gemeinen Leben doch Geldbeträge jeder Art Kapital genannt. Die Geldsummen, welche der Aufwandswirtshaft (der Hanshaltung!) gewidmet sind, z. B. die Haushaltungskasse, selbst Sparpfennige u. dgl. mehr, werden beispielsweise auch von den Praktikern der Wirtshaft und von den Juristen nicht als Kapital aufgefasst. Nicht für jede Geldsumme, über welche eine Person verfügt, ist im gemeinen Leben der Ausddruck Kapital gebräuchlich. Nur Geldbeträge, welche der Einkommensbildung gewidmet, Bestandteile des werbenden Vermögens einer Personsind, werden mit diesem Worte hezeinet.

ノ醬利用ノ財産――ノミガ、資本トIKフ言葉テ胃表ハサレチ居ルのI(下略) 分>得ル凡テノ金額ニ對シテ、資本トIKフ言葉子用ヒテ居ルノデハ無イ。只所得チ生ム窩ニ用ヒラレテ居ル金額――即り或人額、即ナ滅計上ノ金錢、貯金等ハ、實験家カラモ法律売カラモ資本トハサレテ居ラス。即チ一般ノ生活ニ於イテハ、或人ノ處『併シ一般ノ生が二於イテハ、凡テノ種類ノ金額が資本ト名ケフレテ陪ルノデハ無イ。例へパ消費經濟(家計)ニ向ケラレタ金

以上引用シタル限リニ放イラハ、余いめんがート殆下同意見デアル。殊二資本ト云フノハ「決

意見 テ生産ニ要スル原料ヤ、 事 シ真相 ニ觸レタル卓見デアルト信ズル。又資本ト云フノハ凡テノ余錢ヲ指ス 助成品ャ、又ハ商品ャ、 機械ヤ、 建物等ノ財ヲ指スノデハ無イ』 上云

ノ仕方如何ニ依ツラ ハ無クテ、 例へバ家計上ニ振り向ケラレ ハ必ズシモ誤謬ダトハ云へヌ。 タ金銭ノ如キハ之ヲ資本ト稱セズト云フ意見モ、 即チ余ノ解釋ニ從ヘバ、 消費經濟ニ向ケラ

余 居ル金銭 バ、是等消費經濟ニ向ケラレ居ル金錢 ノ如ク資本ヲ以テ、浮キ上リ居ル所ノ一般的購買力ヲ有スル『剩餘 ハ近ク消費 リル ベ ŧ 運命ヲ有シ、余ノ所謂『剩餘ノ』財産ニ屬セザ ノ 如キ ر • ソ ガ剰餘ニ非ザル ノ島財産ナリト為ス者ヨリ見 ノ敵ヲ以 w Æ テ、 ノデ 之ヲ資本ニ非 7 . ساد 從ファ

ス\* ト

スル

ノデアル。

而シテめんが!

ノ言ヘル

が如ク、

此ノ如キ金銭ハ實際家モ法律家モ矢張之ヲ

資本ヶ看做シテ居ラヌノデアルガ、何故彼等ガ之ヲ資本ト看做シテ居ラヌカト云フコ ヲ生ム爲ニ使用サレ居ラザル 至ッテ めん かゞ 1 ノ意見へ上ニ述ベタ卑見ト相違シテ居ルノデ、 ガ故ニ、其理由ョ リシテ 之ハ 資本ト稱サレ 即チ 氏 ıν ۸, ~: 是等ノ Ŧ ノデ無イト云 金錢 ŀ ・ノ解釋 所得

フ

デア

荷クモ差當リテ必要ヲ感ゼザル金錢アラバ、或ハ之ヲ銀行ニ預ケ入レ或ハ之ヲ他人ニ貸付クル 尤モ今日 ノ經濟社會ニ於イラハ、其ノ剩餘ノ金錢ヲバ徒ニ庫中ニ死藏スル者ハ甚ダ稀ニシヲ、

۴ 同 めん 一ニ歸スル かゞ 利殖 ノ如ク之ヲ定義シテ利殖 ガ如ク見ユレ ノ法ヲ講ズル ヲ常トス ١. ŧ 實ハ此ノ處ニ於ケル一歩ノ差ガ後ニハ千里ノ違ヒヲ生ズルニ ル ノ用ニ供ゼラレアル財産ナリト爲スモ、 が故ニ、 余ノ如ク資本ヲ定義シテ剰餘 結果ニ於イテハ殆 ア財産 ナリト為

資本ノ眞概念ノ發展(二、完) (第三號

四〇七) 

至ル根元ト 爲 ルモノニテ、之ヲ輕々ニ者過スル能ハザ iv ・事情ガ 在ル。

盖 シ所得ヲ生ム為ニ使用サル ŀ 云フコトヲ以テ資本ノ特徴ト ス v コトハ、 軈テあだむ・すみす

部分ニ區別サル』、而シテ其所有主ガ自己ニ向ツラ『收入(revenue) ヲ提供スベシト豫期セル部分ノ ÷ ノ設ケタ古巢ニ還ル所以デアル。 即手其者ノ資本ト名ケラル」 前ニモ述ベシ如ク、あだむ・すみすハ『人ノ財本 ト説明シラ居ルノ デア ル ガ、此ノ如ク利殖 ア用 (Stock) ハニノ ニ供ゼラル

ト云フコトヲ以ラ資本ノ一特徴ナリト爲シタ此ノあだむ・すみすノ説明ハ、其後久シキ間、

資本

**眞概念** 此ノ利殖説ニ歸ラントシツツアル 百年來ノ傳說 ラ闡明 ヨリ離脱シ、 ノ爲メ如何ダレ妨ゲニ爲ツタカ分ラヌ程ノ 貨幣價値ヲ以テ資本ノ特徴ト為サント試ミツ ノデアル。而シテ氏ハ既ニ此勲ニ於イテ一步ヲ過レ <del>-</del>E 1 デア *بر*ر 0 ッア 然ルヲ今めんが ル傍ラ、 復タシテモ w ノミ 1 火此

ズ、 資本ノ特徴タル貨幣價値 ノ 全 夕 浮キ上 リ居ル Æ ンタ 'n = ŀ ラ看過 セル結果、 最初議論 ノ出發 ナラ

建物等ノ財ヲ指スノデハ無イ』 敤ニ於イテハ、資本ナルモノハ『決シラ生産ニ要スル原料ヤ、 ŧ 迄二資本 ノ概念ヲ擴張 シ去ル ト云フ大膽ナ見解ヲ立テタ氏モ、後ニハ殆ド從來ノ通説ト差異ナ ガ如キ説明ヲ爲シテ、 無用ノ妥協ニ陥 助成品ヤ、又ハ商品ヤ、 ラ ザ ندر ヲ得ナク ナーツラ居 機械ャ、

ノ用語ニ從ヘバ、 先ヅ利息サ生ム所ノ賃金(及ビ斯カル目的ニ向ツテ使用スルコトニ定メラレアル金額)ハ凡テ一般ニ資

本ト看做サレテ居ルの

即チ氏

ノ議論

ノ後半ヲ見ル

١,

次ノ如ク爲ツテ居ル

ノデアルロ

次ニ他ノ生産ノ用途ニ供セラルベキ金額モ、ソガ現ニ一定ノ金額チ代表シテ居ル限り、矢堤資本ト看做サレテ居ルの 例へバ

購買ノ爲ニ使用サルベキ金額等ハ、所得チ生ム箕金ト同ジャウニ、通俗ニハ矢張資本ト稱セラレルのほ 企業ノ開始ニ甯リ基事業ニ投ゼラルベキ金額、未ダ事業ニ着手セザル株式會社ノ資金、 **引續キ所得ヲ生ズル源トナルベキ財ノ** 

ハ先ヅ無難デアルガ、以下次第ニ資本ノ概念ヲ擴張スルニツレテ、之ヲ余ヨリ見レバ

歩一歩誤謬ニ陥リツツアル。氏ハ乃チ言ヲ續ケテ日ク

**便サレテ居ル。ソコデ此ノ營利ノ目的に供ビラレアル財産ハ、統ヒ其物自身ハ現ニ少シモ貨幣カラ成リ立ツテ居ル課デハ無ク** 物ノ技術的性質ソレ自身ハ如何ニモアレ、其物ノ貨幣價値が吾々ノ經濟的計算ノ 對象 (Gegenstand uuseres ökonomischen 瘵及ビ經濟的計算ニ於イテハ、其點ハ全ク顧慮ノ外ニ體カレ、其物ノ貨幣假館ノミガ重キサ體カレルコトニ爲ル。カクテ『其 trag") 考へラレ、事實又一定ノ金額チ代表スルコトニ爲ル。ソコデ是等ノ財ノ技術的性質ハ如何樣ナリトモ、吾々ノ經濟的觀 全ヶ其他ノ種類ノ財カヲ成リ立ツテ居テモ、矢張利強ノ用ニ供ビラレアル一定ノ金額ト シテ (als ein "werbenden Geldbe 然ルニ更ニ進ンデ考フレバ、今日ノ如キ貨幣經濟ノ時代ニ於イテハ、各個人ノ財産殊ニ營利經濟ノ財産ハ凡テ貨幣ヲ以テ鄴

成り立チ又ハ貨幣ニテ計算サルル所ノモノ(das in Geld besthende oder kalkulierte Vermögen einer Erwerbswirtschaft) リ立チ又ハ貨幣ニテ計算サルル所ノモノサ指シテ資本ト謂へドモ、之ヲ廣義ニ解釋スル時ハ、營利經濟ノ財産ニシテ貨幣ヨ

眞ノ概念ノ中ニ包含サレルノデアル。』而シテ『通俗ノ用語ニ從ヘバ、營利經濟ノ基本財産(Stammvermögen)ニシテ貨幣ョリ成ぼ

Kalkiles) デアル限リ/即チ基物が吾々ニ向ツテ計算上所得チ生ム貨幣額トシテ表ハレ居ル限リ/營利經濟ノ財産ハ凡テ資本ノ

以上引用セシ所ニ依ツテ見レバ、めんが 八、凡テ一般ニ之チ資本ト謂フロ

カラザル要素ト為セルカヲ知ルニ足ルノデアツラ、此點ハ實ニめんが1ノ卓見デアル。乍倂 畢竟一般的購買力ニ外ナラザル 氏ハ、資本ノ特徴トシテノ此ノ貨幣價値タル、社會一般ニ通用スル所ノ貨 1 ガ如何ニ貨幣價値ト云フコトヲ以ラ資本ノ概念ニ缺 コトヲ看過セシ者ニテ、 丽 シテ既ニ此點ヲ看過

前二 クベ

æ

旣

ニ述ベシ如ク、

幣價值

ニシテ、

論

訊

資本ノ眞概念ノ發展(二)、完

第三卷

(第三號 四〇九)

\_ () 七

- S.
- S. (4)

假二營利 濟社會ニ於ィラハ如何ナル財モ殆ド皆ナ貨幣價値ヲ以ヲ評價サレ 資本ノ特徴ト テ、 歸り、 יי 事情ニ立到リシモノデアル。卽チ氏ハ更ニ進ンデ次ノ如ク述ベテ居ル。 ツアル 余ヲ以テ之ヲ見レバ、此歟ョリシテ氏ノ資本ノ概念ハ最後ニハ再ビ あだむ・すみす 少クト ノ用ニ供ゼラルト云フコトヲ以テ資本ノ他ノ特徴トセン 財 ハ盡ク之ヲ資本ト稱スルト殆ド同ジャウナル説明ヲ シテノ貨幣價値ナルモノノ意味ヲバ氏ノ如ク粗大ニ解釋スルニ至ラシカ、 モ前ニくら-くニ就イラ指摘セント同ジャウナル矛盾ト曖昧トヲ存セザルヲ得 爲 カーー荷クモ警利 アラザル サザ jν æ ヲ得ザル ノ無キガ故 ニ至リ ノ用ニ供ゼラ 今日 ノ舊巣 Æ

之ニ依リテ見レバ、氏ハ最後ニ至ルマデ、工場ヤ機械ヤ原料ナドハ其物自身ガ決シラ資本 derselben) ハ即チ其八ノ固定資本ノ一部デアル。又織物工揚ニ於ケル羊毛、染料及ビ其他ノ原料ハ資本デハ無イ、是等ノ財 ^ 其所有者ニ向ツテ固定的生産財産ノ一部ト爲ルノデアツテ、計算サルベキ其物ノ貨幣質値 |財トシテ資本ト爲ルノデハ無イ、只計算サルベキ其物ノ貨幣價値が流動資本ノ一部ト爲ルノデアル=6 『工場デモ、倉庫デモ、磯助磯デモ、若シ其物が之が使用ニ依り鬱利經濟ニ役立ツト云フ使命き有ツテ居ルナラパ、 ノデハ無イト云フコトヲ主張シヲ居ルノデアツテ、 爾カ云ヘル限リニ於イテハ余 (der kalkulierte Geldwern 三於 稱

イテモ ト全ク同 サルベキモ ノ財ノ貨幣價値へ即チ資本ナリト説明スルニ至ツラハ、——其着想前ニ述ベタルくらしく 異存い無イ。 轍 ニ出デタル 乍倂、 æ 氏ガ更ニー步ヲ進ィテ、是等ノ財ソノモノハ資本ニ非ザレド ノニテ、 余ノ到底承服スル ヲ得ザル所デアル E 是等

ノハ工場機械原 資本 S. 43 ff.

デアル

主張シテ居ルノデアルケレドモ

|シ氏ハ、工場ヤ機械ヤ原料等

ノ財ソノモノハ資本ニ非ザ

レドモ只其等ノ財

ノ貨幣價値

此場合ニ其ノ謂フ防ノ貨幣價値ナル

ŧ

主張セ 幣償 物デ リ居リテ』、何等特定ノ生産財(又ハ享樂財)ニ具體サレ居ルニ非ズ、全ク其等具體的 上最早資本デハ無イノデアル。其ガ資本ト稱セラル 例へバ吾人ニシテ假ニ此ノ如キ説明ヲ是認シタリトセンカ、吾人ハ如何ニシラモ外國ヨリノ資本 料等ノ生産財ヲ離レテ別ニ存在シラ居ル譯デハ無イ。 ノ資本ガ既ニ其等ノ物ニ放下サレアルモ 享樂財)ヲ離レテ別ニ存在シ居ル場合、即チ生産財ニモ享樂財ニモ非ザル所ノ余ノ所謂交換財 輸入(所謂外資輸入)ト貨物ノ輸入トヲ區別シ得ザルニ至ルデ 低い資本ナレドモ財ソノモノハ資本ニ非ズナド云フ説明ハ、 ルガ如ク、一定ノ貨幣價值ガ特定ノ生産財(又ハ享樂財)ニ具體サレ居ル以上ハ、ソレハ一定 イケレ ۱ -E 其貨幣質値ガ工場機械原料等ノ生産財ヲ雛レラ存在シ居ラザ ノト見ルベキデアツテ、 ル爲ニハ、問題ト爲レル貨幣價値ガ『浮キ上 勿論財ソノモノト其財ノ貨幣價値トハ ハ無イ乎。 而シテ資本ハ既ニ放下サレ 到底成立シ難キモノデアッテ、 盖シ余ノ既ニ繰 ル以上、 ノ生産財 り返 其貨 同 **交** نزع

形ヲト 倂 意味ニ於イラ是等ノ工場機械原料等ハ一定ノ資本ヲ embodyシ居ルモノト看做スコ 而シテ其貨幣又ハ貨幣ノ代用物ハ余ノ所謂交換財ニシテ即チ資本タル サ \_ 'n |一定ノ財ガ一定ノ資本ヲ embody シ居ルノ故ヲ以ラ其處ニ一定ノ資本アリト言フノ、譬ヘバー キ其物ノ貨幣價値』 ヲ意味スト ベキ其物ノ貨幣價値』ナルモノガ何時ニテモ其レダケノ價格ニ賣却サレ得ルモノナリト云フ ル場合タルコトヲ娶スト信スル。尤モ工場機械原料等ニ就キめんが1 スルナラバ、其所有者ハ何時ニラモ之ヲ賈却スル ニ相當スルダケ ノ貨幣又ハ貨幣ノ代用物ヲ入手スルコ・ヲ得ルモノニテ、 コトニ依リテ、 = トヲ得ル ノ謂フ肵ノ 『計算 所謂 æ ノナレバ、其 ハ出來ル。乍 『計算サル

第三卷(第三路

第三卷(第三號 四一一) 一〇九

定ノ糠分ヲ含メル 砂糖黍又ハ砂糖水ヲ指シテ其處 三砂糖 アリト 言フト 戸 ジ \_ ŀ = テ、 其 ノ誤 繆 タ

= 前既 論 遞 シ タ ıν ゕ゙ 如 クデア ル 0

幣價值 Ł ラ 之ヲ娶スル Jν ŀ w カ ノ關係ヲ 爲 = = / 高調セ 必ぶ浮キ上リ居 め N かゞ シ 1 火黙ニ在 最大ノ iv ル 場合ニ限 ŀ 功いくらしく 同時こ、 jν 氏 Æ 、ノ最大 ノナル ノ其レ ノ映點パ **\_** Ի ŀ 同 ヲ 3) 看過 7 其貨幣價値ナル 百年來忘ラレ セ ₹/ 黑 二 在 w 居 ŀ ε 信 j 9 カ資本 ス ル 資本 jν ŀ 稱 貨

### 五、たっとる

本ナリト possession, expressible in たつとる が所有 放 ガ 如 上述 ï サ ク見ユル 爲ス點ニ在 劚 べ タル 居ル資本ヲ以テ猶資本ナリト 『資木ノ jν ガ 如 ガ 剩 餘 其 ルの 真概念』 ト キくらー 富二 ラ最 試ニ氏ノ所説 terms of money.) トスフノデア ・重大ナル差異ハ、氏ハ前ニ シテ貨幣ヲ以テ表示サレ く及じめんが 題 スル 論 為セ 要點ヲ抄錄スレ 交ヲ公ニ 1 jν ノ論著出デ = 反 シテ居ル。 得ル シ ・ ´ ツテ、 が左 述~ 余ハ浮キ上リ居ル貨幣價値 シ ŧ ノナリ 3 今氏 シくらーく、 y ノ如シ<sub>。</sub> 卽チ一見スレバ殆ド余ノ定義 更ニ / 定義ニ (capitāl 十敷年ヲ めんが 依レ is surplus wealth 經 タ iv 1 資本ト 等 ξ 九 ŀ ヲ 同  $\bigcirc$ 以 깰 ジ テ資 或 华 ク ŀ 現 同

The definition no exchange of products, a person's wealth signified the economic goods he owned, roughly estimated for the of capital as a fund of surplus wealth as a possession reveals at once that capital and wealth ......When the productive process was individualistic, when there was no organization are

- (1) Tuttle, "The real concept of capital." Quarterly Journal of Economics, vol. XVIII (1904), pp. 54-96.
- (2) Ibid, p. 60.

purpose of comparison in terms of area, weight, or number, while to-day, with a social productive process, a system of exchanges, and a money economy, a person's wealth signifies no longer the concrete economic goods, but rather, the quantum of social value he owns, and is always expressible in terms of money. It is practically necessary in estimating a person's wealth, then, to have an inventory of all the economic goods he owns, and to add to the carefully determined social value of the same the amount of all good claims and to subtract the amount of all debts.......When a person's wealth signified, as it did in primitive times, the aggregate of the economic goods that belonged to him, roughly estimated for the purpose of comparison in terms of area, weight, or number, capital in the sense of surplus wealth as a possesion signified an accumulated store of goods over and above what was required for the satisfaction of current wants........But to-day, with a social productive process, a system of exchanges, and a money economy, when a person's weath consists not in the economic goods, but, rather, in the quantum of social value he owns, his capital in the sense of surplus wealth as a possession signifies a surplus quantum of social value expressible in terms of money. Our definition ,then, is as follows: capital is surplus wealth as a possession, expressible in terms of money.

人〉所有セル凡テノ鑑濟財ノ總目錄サ作り、其物ノ社會價値サバ正耀ニ決定シタ上デ、其ニ加フルニ其人が他人ニ對シテ有其人ノ所有セル社會價値ノ分量サ高珠シ、從フテ常ニ貨幣サ以テ表示サレルコトニ為ル。即子或人ノ富ヲ罹量スルニハ、其ガ廣り行ハレテ、貨幣緩満ノ支配スル世ノ中ニナリテハ、或人ノ富ト云へバ最早具體的ノ經濟財ヲ指スノデハ無クテ、鄰ロトカ、又公個數ニ俟2テ大ザンパニ評價サレタモノデアルガ、之ト異り今日ノ如ク生産方法が社會的ニナリ交換ト云フコトニ在リテハ、或人ノ富ト云へバ其者ノ所有セル鑑済財ヲ意敗セシモノニテ、且其命ノ財ハ比較ノ假宜ノ為ニ面積トカ、重量ル。・・・・・ニニュニの公の生産が関ニ行ハル、之ニ關シテ何等ノ組織ナク從フテ生産物)交換ナルモノ未ダ行ハレザル時代(右大意)既ニ資本+以予或人ノ所有セル剩餘ノ富ノ元本ナリトセンカ、資本ト當ト、決シテ同一義ニ非ザルコトナ如ルニ足(右大意)既三資本+以予或人ノ所有セル剩餘ノ富ノ元本ナリトセンカ、資本下當ト、決シテ同一義ニ非ザルコトナ如ルニ足

智 點 對本/賦蓄的/激賦(二、化)

**第三巻 (第三號 四一三)** 

交換トKフコトが磨り行ハレテ(貨幣經濟ノ支配スル世ノ中ニナルト、或人ノ富ナルモノハ經濟財ヨリ成リ立タバシテ/寧ロ ルモノモ、貨幣ニ依ツテ表示スルコトノ出來ル社會價値ノ剩餘ノ一定 註す意味スルコトニ爲ル。故ニ吾人ハ資本ヲ定義シテ政 其人ノ所有ニ驫セル一定量ノ社會價値ヨリ成リ立ツニ歪ルト同時ニ、其人ノ所有ニ嘫セル剩餘ノ富テフ意味ニ於ケル資本ナ **氽サルル所ノモノ以上ニ存在ヘル所ノ財ノ蓄積す意味シタモノデアル。‥‥‥乍併、今日ノ如り′生産方法が社會的ニナリ** 人ノ所有ニ뤒セル剩餘ノ富ニシテ貨幣ヲ以テ袤示サレ得ルモノナリトスルノデアルロ ニ過ギザリシ時代ニ於イテハ′或人ノ所有ニ盛セル剽餘ノ富テフ意味ニ於ケル資本ナルモノモ′眼前ノ鉄乏ヲ滿足スル爲ニ要 ガ如り入ノ富 - 云へバ(其人ニ屋スル經濟財ノ總體ラバ(比較ノ便宜ノ爲ニ面積、重量义ハ個敷デ大ザッパニ評價シタルモノ モノが昔ト今トデハ大分相違シテ居ル、従ツテ資本ノ概念モ亦同シヤウニ變化シテ來テ居ル。)・・ スル債權ノ總額チ以テシ、又之ヨリ差引クニ凡テノ債務ノ總額チ以テセチバ爲ラヌノデアル。‥‥(此ノ如り富ノ概念ソノ 即チ原始時代ニ於ケル

ラ資本ノ特徴ト為セルヨリモ、寧ロ貨幣經濟時代ニ於ケル一般ノ富ノ特徴ト為シラ居ルノデアル。 デアツテ、從ツテ其物ガ一定ノ貨幣價値ヲ以テ表示サレテ居ルト云ヲ黙ニ至ツテハ、氏ハ之ヲ以 以上引用スル所ニ依ツラ見レバ、たつとるノ重キヲ置クル所ハ資本ガ剩餘ノ富デアルト云フ點

# **獪進ンデ氏ノ所論ヲ昤味センニ、氏ハ日ク**

而シテ余ヲ以テ之ヲ見レバ此點ニ氏ノ概念ノ誤謬ガ存スル。

is not land, buildings, machines, materials, or workshops. It is important here to emphasize the fact that capital according to our conception is not money, though it is

The distinction between a thing and its value must be kept always in mind. Capital is not a concrete material

then, is a fund of value, - surplus wealth as a possesion, - and not a material product or an aggregate of

conviction that the capital controversy does not admit of solution.(9) that the only question to be determined is what goods are entitled to belong to the category, it is the wrighter's products.(1) So long as the assumption goes unchallenged that capital consists of a category of economic goods, and therefore

テ、有形的ノ生産物义ハ斯カル生産物ノ集合體デハ無イ。(下略) ナルガ、經濟財ソノモノハ資本デハ無イ。・・・・・郎チ資本ナルモノハ價値ノ元本---或人ノ所有ニ魘セル剽餘ノ富---デアツ 物ト其價値トハ常ニ區別シナケレバナラヌ。資本ハ具體的有形的ノモノデハ無イ。‥‥:經濟財ハ資本ヲ放下スル目的物ニハ ・・・・ 更ニ注意スペキコトハ、資本ナルモノハ土地デモ、建物デモ、機械デモ、材料デモ、又工場デモ無イト云フコトデアル。 (右大意)茲ニ注意スベキコトハ、資本ハ常ニ貨幣ヲ以テ表示サレテ居ルケレドモ、シカシ貨鄕デハ無イト云フコトデアル。

相違シ、 黙ニ於イラモ余ト殆ド同説ナルガ如ク思ハル。卽チ氏ハ更ニ次ノ如ク論ジラ居ルノデアル。 是等ノ説明ヲ輕々ニ讀ム時ハ、氏ノ主張ハ、具體的有形的ナル一切ノ生産財ヲ以テ資本ニ非ス 生産營利ノ目的ニ使用スルコトヲ以ラ資本ノ要件ト爲サザルモノニテ、 ノ主張ト殆ド同ジガ如ク見ユル。殊二氏ノ卓見トスベキハ、 前ニ述ベタル 一見スル時へ此 めん

利ノ目的ニ使用スペシト決定シタル時ニ始メテ資本ト燃ルノデハ無イ。資本が如何ナル特種ノ用途ニ使用サルルカト云フコト ハ、くに1す教授が明瞭ニ論ジタ如ク、全ク第二次ノ事抦デアル。: 『貨幣ニテ表示サレ得ル所ノ剽餘ノ富チ有スル者ハ資本チ有スルノデアル。剽餘ノ富が資本デアル。其所有者が之チ何等カ營 或ハ家屋ニ放下サレ、サウシテ其家屋ハ或ハ家賃ヲ取ツテ貸ス爲ニ用 - 資本ハ或ハ利子チ取ツテ貸附ケラレルコトモアリへ

改ハ土地、機械又ハ商品等ニ放下サレルコトモアリ、

資本ノ眞概念ノ發展(二、完)

ラレ或ハ資本主自身が之ニ住ム為ニ用ヒラルルコトモアリ、或ハ食料其他ノモノニ放下サルルコトモアリ、又場合ニ依ツテハ (第三號四一五)

第三卷

рр. 61, 62, (4)

ルコトモアル°(6) 資本主が之サドゥ放下シヤゥカト云フコトナ決定スルニ至ル迄ハ、自由資本トシテ、貨幣ノ形 ヲ取 リタ ルママ

意見ノ差異ハ或意味ニ於イテ極メテ微妙デアルカラ、上記ノ如キ説明ハ殆ド之ヲ其ノママ余

資本ノ概念ノ説明ニ流用スルコトサへ出來ル。卽チ資本ハ之ヲ如何ナル目的ニモ使用シ得ルモ ハ、余ノ少シモ異存ナキ所デアル。乍倂、問題ハ、只其ノ既ニ放下サレ使用サレタル後モ猶之ヲ ニテ、其用途如何ニ依ツテ或ハ資本トナリ或ハ資本トナルヲ得ズト云フガ如キモノニ非ザルコト

レバ爲ラナクナルノデアル。 即チ氏ハ上記ノ説明ニ引續イテ

資本ト謂コベキャ否ヤト云フ點デアル。而シラ此點ニ至ツラハ、余ハ遂ニ氏ト全ク袂ヲ別タナケ

until it ceases to exist as a surplus. (7) It may be made to assume each of these states in succession. In no case, however, does it cease to рe capital

ト明言シラ居ルノデアル。卽チ資本ハ土地、 機械、商品等ニ放下サレラ居ラモ、又ハ貸家、 自己

ノ住宅、 食料等ニ放下サレテ居テモ、依然トシテ資本ダト云フノデアル。 即チ

exists as a stock over and above what is required for the satisfaction of current wants, it is fundamentally and essentially capital, without regard to any specific use to which it may be put.(9) The stock may be in the form of consumption goods, acquisitive goods, or production goods; but so long

生産財デモ消費財デモ兎モ角剰餘デアレバ其ガ資本タト云フノデアル。然ラバ先キニ『資本ナル ト云フニ、畢竟是等ノ財ソノモノハ資本ニ非ザレドモ、只其等ノ財ノ價値ハ卽チ資本ナリト云フ ノハ土地デモ、建物デモ、 機械デモ、材料デモ、叉工場デモ無イ』ト言ヒシハ如何ナル意味 рр. 86, 87. 87.

٠E

78. (8) p.

在 y テ 卽 Ŧ 其 (無ニ於 イテハ 先 + = 一述べ シめ んが 1 ノ意見ト 全 ク同 ナノ デ 7 jν 0 俪 シ テ其

誤謬 チ 3 前 旣 <u>-</u>-述 2 ル ゕ゙ 故 重 -}-・テ茲ニ ショ 論 ŧ. ヾ Ի 雖 モ 要 ス jν 二 其級

貨幣價值 浮キ上リ居 עונ **\_** トヲ以テ其特色ト為 Ł ル **\_** ŀ ヲ看過 -Ŀ シ黙ニ在ル

アル。武二其一二例チ擧ゲンカ、 たつさる等ノ影響ニテ、 苟りモ貨幣價値す有スルモノハ皆資本ナリトノ考ガ、今日ハ次第二學者ノ間 ふえたー == 一横マ

general unit of value)ト書に得ラルルo』 『資本ハ今日之ヲ定義シテ、價値ノ一般的單位ヲ以テ言表サ タ經濟上ノ富(economic wealth expressed in terms of

『廣義ノ資本ニハ資本價値ヲ有スル凡テノ物ヲ含4゚卵チ資本ノ統計ハ富ノ統計ニ等シイ。』②

ト爲シ、せーりぐまんハ

資本(lucrative or acquisitive capitalー會社ノ特許權、商人ノ得意等チ含ム)(!!)生產資本 (production capital) ノデアルロ 論ジ、資本サ三大部門ニ分チ(一)消濫資本 (consumption capitalー消費者ノ手ニ存スル食物) 質石、 書籍ノ類)(二)利得

又でかんほーさハ資本ヲ定義シテ 『資本トハ價格テ以テ言義サレタ持續的ノ財産又ハ富デアル』(Capital is durable property or wealth expressed under

ト書ツテ居ル。 the price denomination.) 特額的ト云フ條件が加ハツテ居ルダケデ! 氏モ亦殆ド凡テノ富ヲ資本ト看做シテ居ル デアルロ

独山崎博士ノ注意ニ依リテひりつほおつち原論ノ第十版ヲ見ルニ、 其中ニハ灰ノ如キ文句ガアル。

Da wir dies immer in Geld ausdrücken, können wir auch sagen, dass hiernach das Kapital *das in Geld ausgedrückte* 資本ノ眞概念ノ發展(二、完) 第三卷

畜

訉

(1) Fetter, The Principles of Economics, 1904, p. 115. 氏か其近業 Economic Principles (1915) ニ於イテ親ケル所ノ一部分ハ、 灸が訳ニ酷似スルが如クナレドモ (Davenport, "Fetter's Economic Principles"—*The Journal of P. E.*, April, 1916. 三據ル)、未矛原本チ手ニスルチ得サルが放二へ介評論スルチ得ズ (2) Seligman, Principles of Economics, 1910, p. 313. (3) Davenport, The Economics of Enterprise, 1913, p. 132. (4) Fisher, "Precedents of defining capital."—*Quarterly Journal of Economics*, vol. XVIII.(1904),p. 386 ff. Capital and Income, 1906. Elementary Principles of Economics, 1911.

トシテ居

(第三號

第三卷

Erwerbsvermögen(貨幣ニ言ヒ表サレタル營利財産) bedeutet.(%)

veitragmässig vereinbarten Preis.(6) Kredit bedeutet nun regelmässig die (貨幣ニ言ヒ表サレタル購買力)d. h. von Kapital im oben bezeichneten Sinne an einen Dritten um einer Uebertragung von Geld bzw. der 272 Geldausgedrückten

**乍併、貨幣價値ト云フコトサ全ク眼中ニ置カズ、過去ノ生産物ニシテ將來ノ生産ノ用ニ供ゼラルルモ** ト云ツタ風

チ其レデアルガ、 技術的性質ニノミ着眼セル傳説的定義チ襲用シテ居ル者モ、決シテ少りハ無イ。有名ナル學者デハぼえむ・ばたるくノ如キ 其外例へバネーがし

『過去ノ産業ノ生産物にシテ更ニ生産ノ用サ成ス爲ニ用井ラルルモ  $\Im$  (the products of past industry used

further production) ノ如キモ資本ヲ定義シテ

過シテ居ル。 即

ト云ヒ、うをるふモ亦、

自然及ビ勞ガニ次ギ第三ノ生産要素ト爲ルモノトシテ資本ヲ擧ゲ、

Produktivität der Arbeitstiere, Werkzeuge, Maschinen. Sie gehen unter dem Namen "Kapital" (echtes Kapital, Kapital im strengen Neben Natur und Arbeit sind in der Güter-(Wert-) Produktion Arbeit Objekte wirksam Vorrate verschiedene ਬ Art und als für "Ermöglichung, Arbeitsmittel, Arbeitsbehelfe <u>a</u> Steigerung

und engeren Sinne) als driftes "Produktionselement".

以上述ベタル諸家ノ意見ハ、古今ノ學説中比較的余ノ意見ニ近キモノニ就キ其ノ最モ Produktionsmittel nennen wir das objektive oder volkswirtschaftliche Kapital.) ト言ツテ居ルノデアル。 れきじてノ如キモ、人為ナ以テ生産サレタ生産手段ノ總體が資本テアル(Diese Gesamtheit der künstlichen, produzierten) 代表的

認

メラル

n

ノノミ

ヲ列擧シタル

二止マレ

ŀ.

-€ `

此中最モ新ラシ

ク

ノハたつとるノ其レデアル。

即チ氏ハ資本ヲ以ラ(一)貨幣價値ヲ有スル(二)剰餘ノ(三)財産 シテ且最モ余ノ意見ニ近キ 其貨幣價値ノコト ハ全り之ま看 as aids 一財 ۲ 爲 Ŧ ť Phillipovich, Grundriss, 1913, S. 37. (6) a. a. O. S. 39. "Damit macht Böhm eine rein technische Tatsache zum Kardinalpunt der Kapitalerscheinung, und dieser Ausgangspunkt ist der eigentliche Irrtümer seiner Argumentation.—Karl Dihl, Zur Kritik der Kapitalzinstheorie von Böhm-Bawerk. (Jahrbüc er f. N. O. u. S., 105 B., S. 578.) Seager, Introduction to Economics, 1910, p. 108. (5) (1) (2)

'n 籴 籴 自 揭 ラ資本 ケ タ ル資本ノ 真概 74 念ヲ 個 發見 特徴 シ Ø 中 ル 者 兎 ナ n Æ 角 3 子芸三個 ŀ ヲ 確 ク 7 信 デ ジ ヲ テ 網 疑 羅 シ ष्र **J**(The ァ 居 ル writer firmly believes デ 7 jν 0 ナ レ 15 氏

that 立場 he **∷**7 has y 云 found ٠,٠ 余 the ٠. 氏 real 揭 capital ケ 夕 w 資本 concept.) シ三 特 黴 ŀ 稱 \_ 加 シ 居 フ w w Æ \_ 無 理 更 カ = 其 ラ ヌ 浮 7 ۴ ۴ ١ 上 思 ŋ フ 居 力 ル -C 倂 1 ナ **:**/ 氽

ナ o ク ŀ ヺ ン ៣ 以 カ ッぎ 則 ラ -6 斯 チ -tz 余 ク 言 余 大 フ 幸 靗 7 ١ ŀ ヲ 以 ス ヲ 許 ナ、 v 所 ス 者 デ 始 ァ X ラ jν 資本 或 · 余 一 真概 人 企、 ナ Ŧ v 發 t 見 Æ 知 シ 得 ル 可 Ţ ラ ル ズ Æ o 證者 ŀ 爲 ŧ サ ザ シ 示 jν 敎 ヲ 得 7 客 又 7 jν ゔ゙

記 仝 余 , 意見 相 違 1 îĒ 意 <u>ئ</u> 力 v ベ 張 ./ ኑ 思 N 然 n ノ 證 場 據 他 於 學者 特 = 資本 槪 念 バ ヲ 靗 明 ス jν

7

ン

ŀ

12

n

見

ヺ

主

٠/

居

ラ

ザ

w

合

=

イ

ラ

資本

ナ

n

語

ラ

3

"

余

層原 ŀ. n 論 ゕ 加 於 ¥ 意 1 咏 ラ 特 = 用 ۳, 資本 ᠇ 居 jν 概 = 念ヲ ŀ デ 説 7 朔 w 0 ÷. iv 例 際 ~ ٠,٧ 4 1 廣義 ŋ ぐまん ノ資本ニ 加 ŧ 資本價值 前 = 述 ヲ ベ

ハ貨物 經濟的說明』 即チ資本 輸出 ŀ 云フ = 於 鮅 計 **\_** 才 ՝ **Ի** テ 誽 宫 三在 明 , 總 セ 計 w 所 ラ 绾 見 シ イ 匚 ル ŀ ۲ 國際間 云フ ゕ゙ 如 競爭 9 = 說 資本主義發 顭 シ ナ ゕ゛ ラ 展 其近 有 ス IV

現職爭

ラ

物ヲ含

Z,

transferred from 有 the ١× ス -E export ĮИ 其第三期ニ至ツテハ資本ノ輸出 æ > 요 皆資本ダ goods Ö ኑ the 云フナラ export of ) Y 此 capital) ፞፟፟፟፟ 云フ ラ如 ŧ \_7 第 ナ 靗 1 明 ١, ۲ 期 爲 ŀ 意 靗

别 ス jν J ኑ ゕ゙ 出 水ナ ŋ 第三卷 ナル 1 (第三號 ぎ 7 ル 74 九

味ぇ

戍 輸出

ッ

ナ

イ

叉財

ッ

/

-E

資本 品

=

非

ザ

レ

ŀ

-6

其財

貨幣

價值

ガ資本

ナ

9

۴

吉フ

ナ

ラ

パ

貨

}-

資本

ノ輸出

ŀ

全

ク ۸,

誻

滼

資本ノ眞概念ノ發展(二'完

明

**€**/

ラ

居

pv

ノデ

7

יאק י now

若シ貨幣價值

フ

(The emphăsis

ន

9 凡テ 如

Wolf. Nationalökonomie als exakte Wissenschaft, 1908, S. Lexis, Volkswirtschaftslehre, 1913, S.

<sup>3)</sup> 4) (

Ibid, p. 62. (6) Seligman, An Economic Interpretation of the War, 1915, p. 51.